

# みなとオアシスりしりとう・おしどまり(北海道利尻富士町)

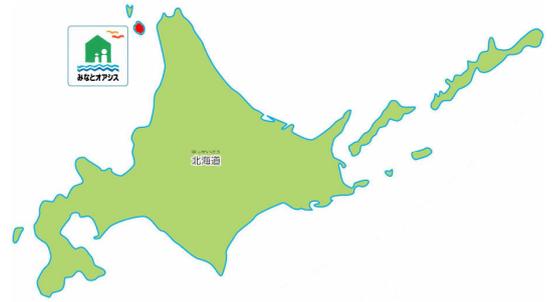
平成26年1月24日登録

## 関係主体

登録主体:利尻富士町

運営主体:鴛泊港活性化推進協議会

認定主体:北海道開発局長



## 位置



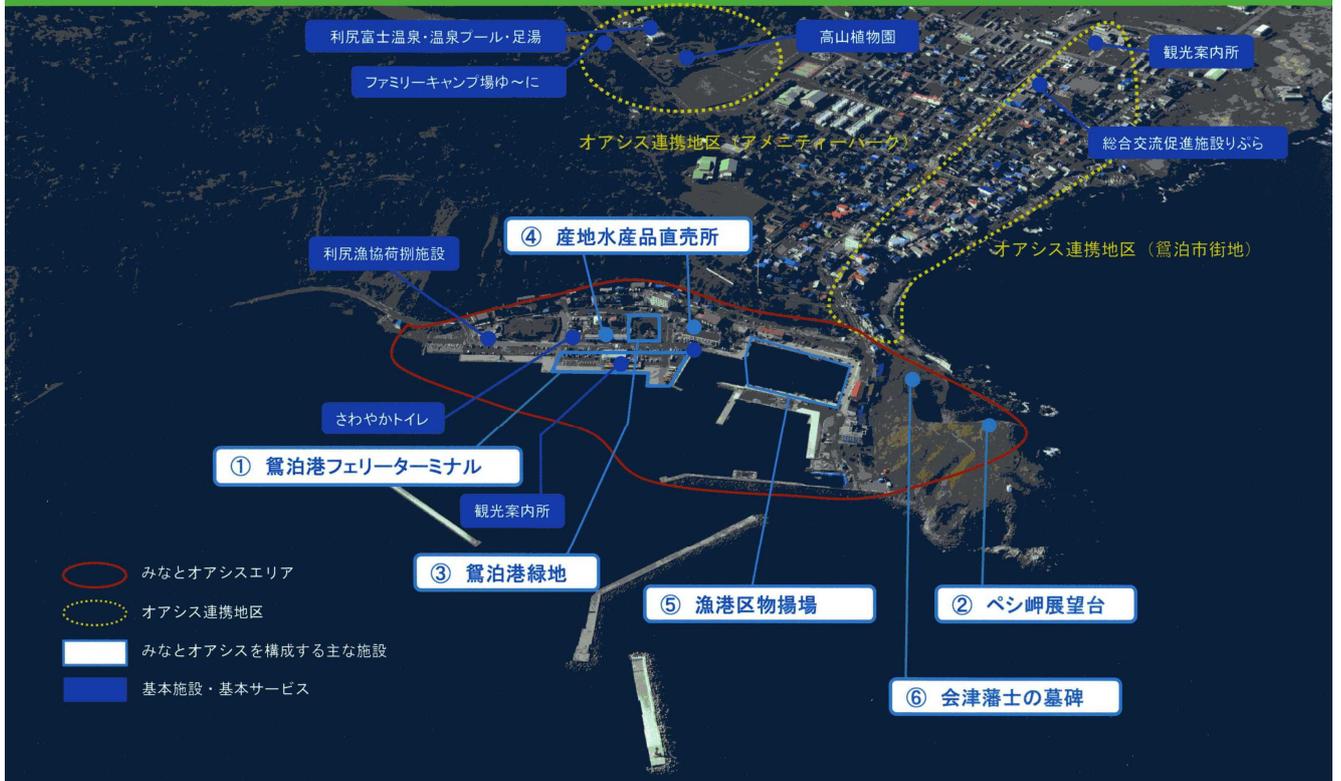
### 【交通アクセス】

- 稚内市よりフェリーで1時間40分
- 札幌丘珠空港より飛行機で1時間(通年)
- 新千歳空港から飛行機で1時間(6/1-9/30)
- 札幌-稚内間はJR、都市間バス、飛行機あり

### <車両待機場>

鴛泊港フェリーターミナル周辺に普通車約100台

## みなとオアシスりしりとう・おしどまりエリア図



## 主な施設

### ●海の駅おしどまり( 鴛泊港フェリーターミナル)



北海道の離島港湾初のバリアフリー対応旅客施設で、利尻島の玄関口として平成 26 年春に新しくオープンします。ボーディングブリッジ設置によりフェリーから車椅子のまま上陸することが可能になり、離島住民の救急搬送も雨風の影響なく乗船することが可能になりました。観光客に対しても移動の利便性が向上したほか、施設内に観光案内、売店、飲食店、授乳室、水飲場、インターネットカウンターも設置された事で、島民にとっても交流・憩いの場としての利用が期待されています。

設置管理者：利尻富士町

所在地：利尻富士町鴛泊字港町

### ●ペシ岬展望台



「利尻礼文サロベツ国立公園」の中の代表的な景勝地であるペシ岬。大正時代にはペシ岬麓にあった小山の石を稚内港築港用に運搬するために石材積出港として鴛泊港の整備が始まったという歴史的な記録もあります。

鴛泊港のシンボリック的存在であり、展望台までは遊歩道が整備されています。ペシ岬頂上から見る利尻山は絶景で眼下には鴛泊港や鴛泊市街地、礼文島、本土が見渡せ、運がよければサハリンも見ることができます。

利尻礼文サロベツ国立公園第二種特別地域内

所在地：利尻富士町鴛泊字港町

### ●鴛泊港緑地



みなとの緑のオアシスとして昭和58年に整備された。利尻島の玄関口であるフェリーターミナルに隣接しており、観光客の休憩ポイント又は港でのイベント開催時は交流の場としても利活用されている。

設置管理者 利尻富士町

所在地：利尻富士町鴛泊字港町

### ●産地水産品直売所( 観光物産・漁協直売所)



鴛泊港フェリーターミナル正面にある観光物産店には、土産品や水産加工品等を販売しているほか、食堂やレンタカー、レンタバイクもありますのでこれから利尻島滞在時は是非お立ち寄り下さい。また、利尻漁協直売所でも特産品が販売されています。

観光物産店運営者：(鴛泊市街地側から) 丸田商店、まごころの店(まごころレンタカー)、平田商店、岡部食品、利尻レンタカー、トヨタレンタリース、蛸島水産、長岡直売所(ニッポンレンタカー)、磯焼亭、木下水産食品、福士水産、食堂さとう

利尻漁協直売所運営者：利尻漁業協同組合

## ●漁港区物揚場



利尻島は、洋上の独立峰である利尻山(1,721m)を中心とした離島のため、湧昇流に恵まれ、対馬海流とオホーツク寒流が交じり合う利尻島周辺の海域からは豊富な水産資源が水揚げされます。

利尻といえばリシリコンブや、そのコンブを食べて育つウニが有名ですが、その他にホッケ、タコ、ヒラメ、カレイ、サケなど旬の魚が水揚げされています。

鴛泊港は利尻島一の漁業基地です。漁港区を散策すると漁師町特有の漁船風景、時間が合えば水揚げの様子が見学できると思います。

## ●利尻富士町有形文化財 会津藩士の墓碑



鴛泊港を見下ろすようにペシ岬麓に会津藩士の墓碑があります。時は江戸、今から遡ること約 200 年前、鎖国下にあった日本に対しロシア側から通商を求める動きが強くなりましたが日本が拒否したため、ロシアから近い利尻島も襲撃に遭い、島民が捕虜に捕られたりしました。ペリー来航の 50 年前の出来事でした。こうした動きに対し、幕府は会津藩等諸藩に蝦夷地防備の出兵を命じ、会津藩から利尻島には 250 名ほどの藩士が派遣され警備に当たりました。しかし、多くの兵は寒さのため水腫病におかされ亡くなりました。それらの藩士を弔った墓碑であり、利尻の歴史上非常に重要な歴史的文化財です。

## みなとまちづくりの経緯

利尻「島」における港湾はそこに生活する人々にとって非常に重要な玄関口です。

幕末における北方警備の藩士が辿り着き、明治期の漁場開拓者が移住、活況を見せたニシン漁、本土との運搬船の往来から定期航路の就航、そして 3,500t級フェリーが就航する現代まで、離島のみなとはその時代時代の生活を支え発展してきました。

利尻島は、昭和 49 年に利尻礼文サロベツ国立公園の指定されて以降最北の離島として年々観光客やそれに伴う物資の輸送需要も増加しました。鴛泊港も昭和 45 年最初のカーフェリー(537t)就航から始まり、平成 2 年には 3,500t級フェリーが就航するに至りました。

近年、鴛泊港では平成 13 年に鴛泊港長期構想を策定、平成 22 年に長期構想のフォローアップを実施し「離島の安定した産業・生活を守る玄関口」「地域の観光や交流を促進する賑わい空間の拠点」「地域の基幹産業を支える漁業基地」という 3 つの柱のもと整備が進められています。

そして、平成 26 年 3 月にフェリーターミナルのバリアフリー化が図られる今こそ、港湾エリアで住民参加型の運営体制のもとでイベントや交流活動を推進し、みなとを核としたまちづくりを実現していくことが必要との考えにより、平成 25 年 7 月に「鴛泊港活性化推進協議会」が設立されました。

今後は、「みなとオアシスリシリとう・おしどまり」から全国に賑わいの場や情報を発信できるよう取り組んでいきたいと思えます。



H22 鴛泊港長期構想鳥瞰図

## 主な取り組み

### ① 7月「みなとピアガーデン」

みなとオアシス登録を記念し、鴛泊港活性化協議会主催のもと新たに実施することになりました。この時期、島の漁業はウニ漁、ホッケ刺網漁業の最盛期です。鴛泊港フェリーターミナル前で観光客、島民と一緒に楽しめるイベントにしたいと考えています。

### ② 8月「北海島まつり花火大会」

鴛泊港で実施される花火大会。

島の短い夏を彩る町民が楽しみにしているイベントです。

いつもは花火見学のみですが、花火大会に合わせた交流イベントの実施も検討しています。

### ③ 8月「利尻島一周ふれあいサイクリング」

鴛泊港からスタートし、利尻山を見ながら自転車で島をぐるりと一周するイベントです。

前日夜には地元有志が焼いたホタテやホッケを食べながら交流会も開催しています。

利尻島は周囲 60km 程度で大人であれば4～5時間もあれば一周する事が可能です。島の中央にそびえ立つ利尻山は別名「利尻富士」とも呼ばれ、見る場所毎に違った顔(白い恋人のパッケージは沼浦地区の利尻山です。)を見せ、お屋には地元のお母さん達がホタテ稚貝の味噌汁を参加者に振舞ってくれますし、沿道からは島民の温かい声援が疲れを癒してくれるでしょう。

是非一度参加してみてもは如何でしょうか。

### ④ 夏季適宜「ご当地キャラクターによる観光歓迎イベント」

利尻富士町には「リップ君」と「リップちゃん」という地元町民に愛されるご当地ゆるキャラがいます。フェリーを降りたらご当地ゆるキャラが観光客を熱烈歓迎するようなイベントを適宜実施したいと計画しています。また、友達の「あつもん(礼文町)」や「リシリン(利尻町)」、「出汁の介(稚内市)」にも連絡し共演できるような機会を設けたいと考えています。

### ⑤ 年間適宜「みなと絵画写真展」

利尻島を往来する人のほとんどが鴛泊港フェリーターミナルを利用します。フェリーターミナルの待合所にて移動の合間に地元の方や観光客が見学出来るよう、昔の港の写真や、フェリーの歴史、地元の小学生等が描いた絵、利尻の歴史、ターミナルから見える漁船漁業の紹介等の展示会を開催したいと考えています。

